

不如治大悪御書

文永期

人肉を食はざる投身無用なり。今其の中を取りて之を^{かんが}勘へるに、法華經の実相は一同に之を存すと^{いえど}雖も、其の行儀は時に随って不定なるべし。故に流通の諸品、品々なり。仏菩薩の^{いぎょう}意樂隨時の故か。^{たと}設ひ悪に非ずと雖も小善を以て大善を^{ふせ}防ぐは五逆罪に過ぐるなり。今の智者万善を勧めしむるよりは一大悪を治するには^し如かず。例せば外道の九十五種の如し。其の^{しよせん}所詮を取るに常樂我淨の四字なり。名は仏法の根本を得たるも其の義は即ち邪なり。仏世に出でて先づ此の悪を治す。正法を説かんが為に苦・無常等の四法を^{かま}構へて彼の邪見を治す。今の世間は弥陀の名号の^{おさ}権法を以て円機を抑へ、円經に進まざらしむ。名号の^{これ}権悪を治せんが為には妙法蓮華經の実術を用ふ。在世・滅後異なりと雖も正法を弘むるの心^{これ}是一なり。時に当たりて秘術を得たるか。